

研究課題名：大腸粘膜下層剥離術(ESD)における inside-out 法についての有用性

所属(診療科)：消化器内科

研究責任者(職名)：吉原 努 (医師)

研究期間：2022 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

研究目的と意義：

大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) において、有茎性あるいは亜有茎性の腫瘍 (いわゆる I p あるいは I sp) は可能であれば内視鏡的粘膜切除術 (EMR) が選択されますが、スネアによる切除が困難な症例については ESD を行うことがあります。これらの腫瘍は頭部が大きく、重力によって腫瘍全体が倒れてしまうため、全周切開をすることが容易ではない場合があります。そのため、腫瘍の肛門側から順行性に切開剥離を進め、口側の粘膜を全周切開せずに残し、最後に残った粘膜を剥離面 (病変の内側：inside) から管腔側 (病変の外側：out) に向けて切除していく inside-out 法を考案し、その有用性を検証します。

研究内容

- 対象となる患者さん：有茎性あるいは亜有茎性の<sup>大腸</sup>腫瘍に対して ESD を実施された患者さんを対象とします。
- 利用する情報/資料：入院時および入院中の診療録より、年齢、性別、身長体重、投薬内容、診断、検査結果、治療内容、転帰および内視鏡画像などの情報を得ます。
- 研究方法：得られた画像所見や報告書より、腫瘍の性状 (大きさなど)、場所、治療時間、治療に用いた薬剤や機材、入院期間、病理の結果、合併症などを解析します。このうち、通常の方法で ESD を行った症例と inside-out 法で ESD を行った症例で比較検討します。

問い合わせ先：【研究担当者】

氏名：吉原 努

住所：〒239-8567 神奈川県横須賀市神明町 1-8

電話：0570-03-2630

FAX：046-884-1305

受付時間：月～金 9:00～17:00 (祝・祭日を除く)